

平成18年1月1日

(第61号)

# 鶴 戸



謹 賀 新 年

鶴戸神宮ホームページ <http://www.btmv.ne.jp/~udojingu/>

発行者兼編集者  
鶴戸神宮社務所



七月十五日午前十時三十分より、御神田において古式ゆかしい伝統行事、抜穂祭が斎行され地元のお若男女多数の参加を賜った。

稲の順調な生育に感謝する祝詞が奏上された後、抜穂の儀が執り行われ、斎主が抜き取った稲穂と、編み

### 抜穂祭 斎行

がさにかすり姿の刈女により刈り取られた稲穂が御神前に供えられた。

十九日には、地元住民や小学生も参加して稲刈りが行われた。子供たちは、ぎこちない手付きではあったが、一株一株慎重に刈り取っていた。



今年収穫された穀物を神々にお供えし、その御恵みに感謝する新嘗祭が、十一月二十三日宮中をはじめ全国の神社で斎行された。

宮中では天皇陛下が、秋に収穫された新穀を天照大御神をはじめ天神地祇にお供えになり、陛下が親らも召し上げられる重要な祭事である。

当神宮においても責任役員、総代をはじめ多数の参列を賜り、各地区より多くの地場産品が供えられた。

祭典は、午前十時三十分より厳修され、宮司祝詞奏上の後、鵜戸小学校二・三・四年生七名により収穫に感謝する「子供神楽」が奉納された。

### 新嘗祭 斎行

### 謹んで新年の御祝詞を申し上げます



宮司 杉田 秀清

平成十八年のお正月を迎え年頭のご挨拶を申し上げます。

歳立たぬ世を願ひつつ新しき年の始めを迎へ祝はむ  
(今上天皇 平成六年歌合始の儀)

この御製は、新しき年を迎え、この年も良き年で平穩でありますようにと、常に国民の幸せと安寧、諸産業の繁栄を祈られる陛下の大御心がこめられていて胸うたれます。

天皇・皇后両陛下共に健康やかにあらせられますことをお喜び申し上げ、皇室の弥栄を心よりお祈り申し上げます。

氏子、崇敬者の皆様方もご家族揃いで良き年をお迎えのことと慶賀申し上げます。

昨年、九月二十六日より宮崎県神社庁皇居勤務奉仕団の一員として五泊六日の日程で上京しました。その折二十七日は、天皇・皇后両陛下並びに紀宮殿下のご会釈を賜りました。

団長でしたので、ご下問があり台風十四号での県下の風水害のこと、大淀川の沿岸の水害、作柄等の様子についてのお言葉でした。又、鵜戸神宮のことも親しくお言葉を賜りました。

両陛下は、皇太子・皇太子妃殿下の折、昭和三十

年と昭和五十四年の二度にわたり、当宮にご参拝になり、その時の「洞窟のお社」のことが印象深いものがおありだったのでしようか懐かしそうに両陛下下頷かれていらっしゃいました。

紀宮殿下にもこの度のご成婚のお祝いを申し上げます。したところ、奉仕団の皆様からも期せずしてお祝いの言葉がでました。「天皇陛下・皇后陛下、紀宮殿下バンザイ」と声高らかに万歳を三唱することを得て、約二百名の奉仕の人々による祝意の万歳が、「蓮池参集所」に響き渡りました。

この度の奉仕は、終生志れがたく、まことに光栄であり難い極みでした。

鵜戸神宮でも、新玉の年を迎えて年頭の歳旦祭をはじめ正月の諸祭典が厳修されました。

森厳なる境内と、波涛打ち寄せる奇岩、霊窟の中に

朱塗りの荘厳なご神殿に鎮まらぬ神域です。どうぞ、晴らしい神域です。どうぞ、お揃いでお詣り下さい。

夏秋冬、日の出、風雨、陽光、波、これらの自然が身近に感じることのできる素

この年の平安とご多幸をお祈り申し上げます。



# 明治祭 秋の縁日大祭斎行

十一月三日午前十時三十分より、明治祭並びに秋の縁日大祭が厳肅に斎行され多数の参列を賜った。

明治祭は、近代日本の礎をお築きになられた明治天皇をたたえ、誕生の日をお祝いする祭典である。

縁日大祭は、古来旧暦三

月の祭礼日に農業、漁業、商工業に従事する人々で賑わったと伝えられており、この事を奉祝する為、春と秋に執り行われている。

奉祝行事として「豊栄の舞」、「鵜戸さん獅子舞」、舞楽「蘭陵王」が演舞され参列者を楽しました。



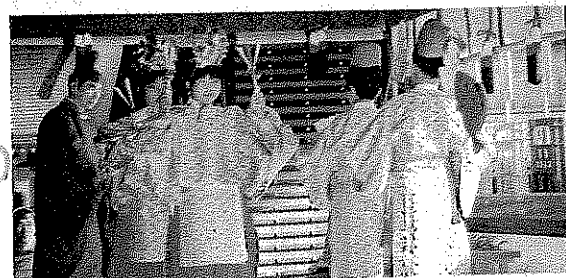
柳の舞



献穀の舞



恵比寿の舞



鈴の舞



豊栄の舞



鵜戸さん獅子舞

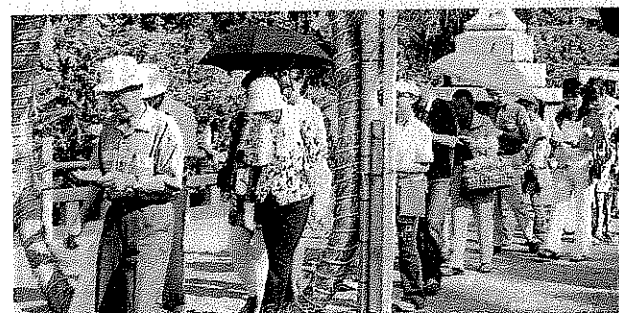
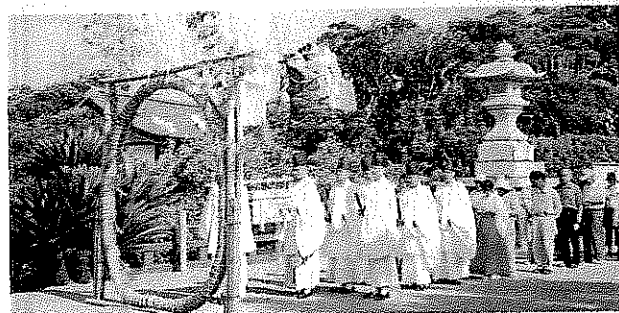


蘭陵王

## 大祓式 斎行

日常生活において、知らず知らずのうちに犯した罪や穢を祓い清め、清く明るく正しい生活を送れるようにと願う大祓式が、六月三十日に斎行され、多数の参列を賜り斎行された。

ことに、六月の大祓は茅の輪をめぐれば、邪気・災難を祓い去り、暑気にもめ



げず健康な生活を送ることが出来ることと伝承されている。

「茅の輪くぐりの神事」では、宮司以下参列者全員で、「水無月の夏越の祓いする人は千歳の命のぶとうなり」と奉唱しながら、茅の輪をくぐり無病息災を祈った。

## 七五三詣

七五三詣は、今日までの無事な発育に感謝し、これからも健やかに成長することを神様にお祈りする大事な人生儀礼である。

一般的に三歳の男女は「髪置」、五歳の男子は「袴着」、七歳の女子は「帯解」

の祝とされている。

髪置とは、生後髪を剃っていた男女が髪を伸ばし始めること。袴着とは、男子が初めて袴を付けること。帯解とは、女子が着物に付いている紐をとり、大人と同じように帯を締めること



を表わしている。

七・五・三という歳の数については、これが縁起の良い陽数であることに結びついたものである。

当神宮でも、十一月に入ると晴着姿の子供たちで賑わい、あちらこちらで記念写真を撮る微笑ましい光景が見受けられた。



燈籠奉納

福岡県大牟田市在住の徳永千代子氏他七名が鵜戸の大神様の御恵に感謝され、燈籠を二基奉納された。

奉告祭は、好天に恵まれた七月十六日六名の参列のもと斎行され、感謝状が手渡された。

尚、奉納者は次の通り。

(敬称略)

- 徳永 靖夫 徳永千代子
- 徳永 前統 主濱 前啓
- 延 愛子 延 善裕
- 柿原 慶二 柿原 裕子



厄入・厄祓・厄明のご案内

厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年令と言われているとされます。

年の始めに御祈願を受けられまして、本年も無病息災にてお過ごし下さいませよう御案内申し上げます。

平成18年厄祓一覧表(但し、数え年)

女性			男性		
	昭和51年 31歳		厄入	昭和42年 40歳	
昭和46年 36歳	昭和50年 32歳	平成元年 18歳	前厄	昭和22年 60歳	昭和58年 24歳
昭和45年 37歳	昭和49年 33歳	昭和63年 19歳	本厄	昭和21年 61歳	昭和40年 42歳
昭和44年 38歳	昭和48年 34歳	昭和62年 20歳	後厄	昭和20年 62歳	昭和39年 43歳
	昭和47年 35歳		厄明	昭和38年 44歳	昭和57年 25歳
					昭和56年 26歳

二月一日は例祭です。午前十時三十分より斎行され、毎年多数の参列を賜ります。今年には舞楽「蘭陵王」が奉納されます。是非、ご参拝下さい。



境内の植物

橙

ミカン科の常緑木で高さ約3m。初夏、葉のつけ根に白色に五弁の花をつける。果実は冬に黄熟するが、そのまま木に置くと翌年の春に再び緑色を帯びるので回青橙の名がある。一つの木に新旧の実がなることから、一族が繁栄することにとえられ、正月のめでたい飾り物としても使用される。



辞令

鵜戸神宮権禰直 中武信明  
神職身分二級とする  
神社本庁(九月十日)

巫女 秋野 愛

願いによりその職をとく

(七月三十一日)

編集後記

社報第61号をお届け致します。一月七日は「七草」です。この日の朝、春の七草を入れた「七草粥」を食べると邪気が祓われ、無病息災で過ごせると伝えられてきました。ところで、春の七草をご存じですか。一般的に、せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな(かぶ)・すずしろ(大根)の七種の野菜や野草です。